

プロジェクト名称

いくべっ！福島支援プロジェクト

活動状況報告 & 活動写真など【活動期間：2012年10月1日～12月31日】

10月7日(日):いくべっ！福島ツアー

本プロジェクト初の試みで、一般の方の参加を募って福島への日帰りツアーを実施した。

目的として

- ①現地でしか味わえない福島の良さを肌で感じてもらう
 - ②福島の安全・安心性を知ってもらう
 - ③「いくべっ！福島支援プロジェクト」の活動を知ってもらう
- の3点が挙げられる。

ポスターなどの呼びかけで年配の方から学生、家族連れまで幅広い方々に参加していただいた。今回のツアーでは、まるえ果樹園、四季の里、飯坂温泉を訪問した。

まるえ果樹園では、旬の果物の梨と葡萄の収穫を体験した。果物はおいしいと評判で多くの参加者がお土産用に梨やりんご、桃などを購入した。福島産の農作物を買っていただくことで、生産者・消費者の関係が生まれ、風評被害の改善に繋がると考えている。



まるえ果樹園



ぶどう狩りの様子



お土産を買う様子

四季の里は、福島の伝統工芸や食を紹介する施設で、参加者は施設内を散策したりこけしの絵付けなどの工芸体験をした。また、福島産の食材を使ったジンギスカンなどを堪能した。この施設は、自然が多く、季節の草花が美しい場所で福島の新たな魅力を紹介し観光地としての福島の可能性を示せた。



施設内の様子



こけしの絵付け体験



農園レストラン

最後の飯坂温泉では福島の名湯を銭湯や姫リングを浮かべた足湯などで楽しんだ。旧堀切邸では飯坂温泉の歴史をビデオで学んだ。福島駅から近いこの温泉地は、お祭りのシーズンということもあり他の団体客の姿も見えた。一般に報道されている苦しんでいる福島ではなく、活気ある復興に向けて進む福島を感じていただけたと思う。



旧堀切邸



ビデオによる勉強会の様子



足湯

このツアーに参加してくださった方の中には、様々な形で福島支援をなさっている方もいて、プロジェクトとしても刺激になった。外部参加型の企画だったため、他大学の学生団体や東大宮サマーフェスティバルでお世話になった東大宮5丁目自治会の方々などにご参加いただけた、人との繋がりを感じることができた。今回のツアーで皆さんに福島の良さを体験していただけたので、参加者の方が地元へ帰って口コミ等で福島の良さが伝わることを期待している。



11月2～4日：芝浦祭

出店2年目の今年は、味噌もちの屋台を出店した。味噌は以前からお世話になっている会津坂下町、目黒麴店の味噌を使用した。砂糖やお酒などで甘く調理した味噌をのせた餅はおいしいと好評で、予定していた600食完売を達成した。また、東大宮サマーフェスティバルに引き続き実施しているスマイルプロジェクトとして、餅を買っていただいた方の笑顔の写真を撮らせていただき、ポスターにして福島の方に送ろうという活動を行った。以前現地視察に伺った時に「消費者の笑顔が励みになる」とおっしゃっていたので、福島の方々に消費者の反応を示していきたいと思う。

笑顔ポスター(右)



味噌もち



笑顔写真



味噌もちの販売の他に、会津坂下町青年団の方に実際にお越しいただき、物産展を行った。物産展では、福島産の漬物や卵、メロンやリンゴなどを販売した。生産者の方に直接販売していただくことで、消費者の方はより安心して商品を買うことができ、生産者側も消費者の反応を見ながら販売することができる良い機会になったと考えている。売れ行きは好調で、中には福島出身の方、福島から避難してきている方で声をかけてくださる方もいた。また、応援していますなどの言葉をいただき、多くの方に本プロジェクトの活動に対して理解や関心を示していただいた。

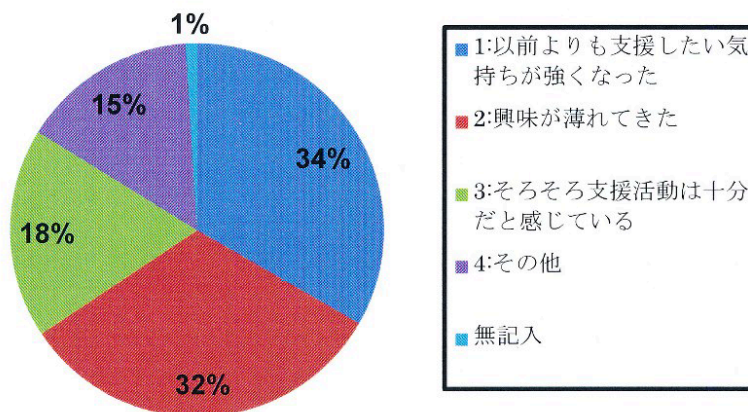


会津坂下町物産展(上)
販売の様子(下)

会津坂下町の皆さんと

販売と同時に、アンケート収集も行った。お祭りの賑やかな雰囲気にも関わらず、多くの方々にご協力いただいた。パーセンテージの変化や様々な意見などから、だんだんと震災が風化してきているという感じる。この結果を参考に今後どのような活動が必要とされているのか考えていきたい。

問2: 震災から1年と少しが経ちましたが、支援活動に対してどのような考えやイメージがありますか？



アンケートから一部抜粋

11月3日：写真が伝える物語—あの日のこと

日本大学国際関係学部三島校舎で行われたパネルディスカッションに参加した。この会は「ハビタットフレンズ三島」が、震災の記憶を風化させたくないという思いで開いたもので、本団体を含め、静岡大学ボランティアサークル「響」、「みしボラ」の3団体が登壇者として参加し、来聴者には一般の方も招いていた。

参加した目的は以下の3つである。

- ◆ 他団体と交流し、今後の活動のヒントを探る
- ◆ 発表を通じ、私たちの活動や福島のことを一般の方にも伝える
- ◆ 震災を改めて見つめ直し、私たちが出来るこれからのことについて考える

この会に参加したことは、今まで行ってきた活動を振り返るとともに、今後行うべきことについて考える機会ともなった。今後もこのような会に積極的に参加して情報発信の場を増やしていきたい。



【集合写真】



【発表風景】

今後の活動計画、目標、意気込みなど

- <2月下旬～3月上旬> ○会津地方での催し物に参加
- 中、浜通りから会津地方に避難してきている人にヒアリング
- <4月～5月> ○福島の中通り、浜通り地方に視察

10月から12月までにかけては、福島ツアーを実行したことで福島をより身近に感じてもらうことができ、私たちが昨年からの目標としてきた**人と人とのつながり**は達成することが出来た。また、講演会に参加したり芝浦祭に出店することにより、以前から行っている情報発信というのも引き続き行えた。

今後の予定としては、福島の実況把握と情報収集のために福島に直接足を運ぼうと考えている。まず2月下旬から3月上旬のうちに会津地方に行く。そこでは、現在困っていることなどを聞くために、中・浜通りから避難してきている人にヒアリングを行う。また、その時期にやっている会津の催し物に参加し、現地の方と交流を図る。

そして、4月から5月のうちに福島の中通り、浜通り地方に視察に行こうと考えている。この視察では、県庁や農協などに赴き、情報収集やヒアリングを行う予定である。浜通りの方も、自分たちの目で震災の悲惨さを再確認するために寄りたいたいと考えている。

この2回の視察で得た情報などはしっかりと活用していき、今後の活動の幅を更に広げていきたい。